「小学生の部」

（銅賞）

〔戻ってきたぼくの自転車〕

山下　大吾
埼玉県西武学園文理小学校三年

幼稚園の時に乗っていたウルトラマンの自転車は、小さくなって乗れなくなったので、おととしのたん生日に新しい自転車を買ってもらいました。それは、赤と黒のマウンテンバイクで、ぼくはとてもうれしかったです。大切にしようと思って、なくならないように名前を書いて、カギももう一つつけました。とてもうれしかってたので歩いて5分の所でも、ぼくは、自転車に乗っていきました。

ところが半年たったころ、ぼくのお気に入りの自転車はぬすまれてしまいました。マンションのちゅうりん場において、カギもきちんとかけてあったのにカギはこわされて、名前もはがしてありました。ぼくはそれを見た時、くやしくて泣きそうになりました。

次の日お父さんがけいさつにとうなんとどけをだしに行ってくれました。マンションのかんり人さんもとどけをだしてくれました。

ぼくはすぐに見つかるものだと思いました。でも、自転車は見つかりませんでした。それからぼくは自転車にずっと乗れませんでした。

家におりたたみ自転車があったので、お父さんが乗れるようにくみたてくれました。でも、サドルがたかすぎてぼくには足がつかず乗れませんでした。ぼくは自転車に乗る事をあきらめていました。そして赤と黒のマウンテンバイクの事も少しずつわすれていきました。

一年近くたった去年のくれに、けいさつから電話がかかって来ました。ぬすまれたぼくの自転車が新所沢のマンションのちゅうりん場に乗りすあったと言う電話でした。ぼくはその話を聞いてとてもうれしかったです。そしてとてもおどろきました。それは一年近くたっていて、ぼくも家族もわすれかけていたからです。なくなった時は、かなしくてさみしくて、仲のよい友達が転校してしまったような気持ちだったのに、だんだん自転車の事はわすれてしまいました。

次の日、お父さんは新所沢の交番まで歩いて行ってくれました。それは、車で取りに行くと、帰りに自転車が車に乗せられないからです。お父さんにも大変な思いをさせてしまいました。パンクもしていたので、お父さんは帰りも歩いて自転車を押してきてくれました。ぼくの大好きな赤と黒のマウンテンバイクはやっとぼくの所に戻ってきました。少しさびてしまったけどまた以前と同じように大切にしてあげようと思いました。やっぱりこの自転車が一番だと思いました。

今年は妹の自転車が小さくなって乗れなくなりました。これから自転車を買うところです。カギをつけて、ちゅうりん場をもう一つかりて、ぼくの自転車ののようになくならないようにしてもらいたいです。それは、自転車はぼくたちを色々な所につれていってくれる大切な友達だからです。